

透析中の下肢牽引痛に対する非医療用低周波刺激器の有用性

医療法人衆和会 長崎腎病院

○津久田明日香 中村麻美 白井美千代 丸山祐子 船越哲

【背景・目的】

透析患者の下肢牽引痛は一定の頻度で発症し、その疼痛と不安感は患者にとって大きなストレス因子である。近年、運動療法や予防マッサージによる下肢牽引痛の予防効果が報告されている。今回は非医療用低周波刺激器(SIXPAD)による下肢牽引痛の予防効果について検証した。

【対象・方法】

下肢牽引痛対策のためツムラ 68(芍薬甘草湯)を内服している 26 名中、透析中に下肢牽引痛を高頻度で発症する患者 10 名のうち今回の研究に同意を得られた患者 8 名を対象とした(男性:4 名/女性:4 名、平均年齢 65.8 ± 6.7 歳、平均透析歴 5.9 ± 6.7 年)。透析前に SIXPAD を 12 分間実施し、皮膚再灌流圧測定検査(SRPP)と下肢牽引痛回数を経時的に調査した。

【結果】

SRPP では各部位での有意差は認められなかったが、8 名中 5 名の患者において下肢牽引痛回数が有意に減少した。

【考察】

透析前の SIXPAD による 12 分間の簡易的な運動は、運動療法や予防マッサージに比べスタッフの人員削減につながり、臨床上也下肢牽引痛に対し有用である可能性が示唆された。